

登録コード	E7162400	開講年度	2026				
授業科目	卒業研究					担当教員	宮野 尚
英文授業名	graduation thesis					副担当	
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室	教育研究室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				教育実践に向きあい、深く探求するための公共的使命感や倫理観の涵養		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				教育実践に向きあい、深く探求するための専門的知識・技能の形成		
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働、キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	特に教育史学の分野における学術論文の基本的構造と手法を概観し、各自が教育に関するテーマを設定し作成をすすめることを促すとともに、他者との関わりのなかで自律的かつ協働的に研究を展開することにも注意を向ける。						
(5)授業計画	第1回:本授業の構想(目的・計画・評価) 第2回:学術論文の基本的構造(1)論文の構成要素 第3回:学術論文の基本的構造(2)根拠に基づいた論証の手続き 第4回:テーマ設定(1):関心の所在 第5回:テーマ設定(2):教育との関連 第6回:研究調査の実施(1):先行研究の調査とレビュー 第7回:研究調査の実施(2):一次資料の収集と整理 第8回:学術論文の試作(1):全体の構想(論文構成) 第9回:学術論文の試作(2):引用と見解 第10回:学術論文の作成(3):独自性と研究史への位置づけ 第11回:事例検討(1):口頭発表の手法 第12回:事例検討(2):外在的批判と内在的批判 第13回:学術論文の推敲:批判的乗り越え 第14回:研究と実践:研究する教師像 卒業論文の提出 受講者の関心や授業の展開等により順序や内容に変更が生じることがある。						
(6)成績評価の方法	・「教育実践に向きあい、深く探求するための公共的使命感や倫理観の涵養」と「教育実践に向きあい、深く探求するための専門的知識・技能の形成」という観点から、卒業論文の質と取り組む姿勢を総合的に評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	・卓越している...自ら設定したテーマの課題の解決に向けて計画を立案し、主体的に探究活動に取り組んで、考察を深めている。 ・かなり上である...自ら設定したテーマの課題の解決に向けて取り組み、探究活動に取り組んで考察している。 ・やや上にある...自ら設定したテーマの課題の解決に向けて探究活動に取り組んでいる。 ・水準にある...研究テーマに応じた調査方法を工夫し、課題解決に向けて努力している。						
(8)事前事後学習の内容	事前学習:各自の関心、研究課題、先行研究、調査方法の関連研究を精読する。 事後学習:ゼミでの批評を受けて、自らの論文校正や立論方法を省察することに加え、補足資料の収集や、先行研究の見直しを行う。 この授業は5単位科目のため、自主学習時間を含めた総学習時間の目安は225時間となります。授業時間以外に、150時間程度の自主学習時間(予習・復習等)が必要となります。						
(9)履修上の注意	研究室所属の学生は必修とする。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	質問・相談等は事前にメールでアポイントメントをとっていただければ随時対応します。メールアドレス:mhisashi@shinshu-u.ac.jp 授業評価アンケートを実施しますので、ご協力をお願いします。						
【教科書】	授業時に個別の関心テーマに対応して提示します。						
【参考文献】	以下の他、授業時に個別の関心テーマに対応して提示します。 ガート・ピースタ著/亘理陽一ほか訳『よい教育研究とはなにか』明石書房、2024年						